

都立立川短大	○石毛フミ子
	岡田 陽子
桜美林短大	菅原由紀子
聖徳学園短大	藤井 香代

1. 表地に関する研究はかなりなされているが、裏地に関する研究は少ないようである。

最近各種の裏地が市販されているので、それらについて裏地として具備すべき諸性能について構成学の立場から検討した。

2. ① 実験材料 キュプラ、交織、絹計10種、② 実験項目、a. じょうぶさ(破断強度、磨耗強度) b. 型くずれ(収縮度、防皺度、伸長弾性度) c. しなやかさ(剛軟度、ドレープ性) d. なめらかさ(表面磨擦係数) e. 扱いやすさ(しるしつけ、アイロンかけ効果、ほつれ)

③ 実験方法 a~d は JIS による。e しるしつけ…チャコペーパー、へら、ルレットによる比較、アイロンかけ効果…アイロンかけ後の開角度、ほつれ…裁断によるほつれ観察。

3. a. じょうぶさ 破断強度は絹がすぐれている。磨耗強度はポリエステル交織がすぐれている。b. 型くずれ 収縮度は絹1種のたて方向を除き1%以下。防皺度はキュプラ、交織、絹間に大差ない。伸長弾性度は絹がすぐれている。c. しなやかさ 交織がすぐれている。d. すべりやすさ 織別間に大差なく組織による差異がみられる。e. 扱いやすさ しるしつけはチャコペーパーが鮮明次ぎがルレット、へらの順。アイロンかけ効果、キュプラのペンベルグデシンが最も悪い。ほつれ、繊維別より組織の影響が大きい。